

第26回横浜環境活動賞・ ヨコハマ温暖化対策賞 表彰式を開催します

横浜市では、地域で様々な環境活動を積極的に行っている方々を「横浜環境活動賞」として、事業者の温暖化対策において優良な事業者を「ヨコハマ温暖化対策賞」として表彰しています。次のとおり、第26回横浜環境活動賞・ヨコハマ温暖化対策賞表彰式を開催します。

1 日時

令和元年6月13日（木）14時00分から16時00分まで（予定）
（開場 13時15分）

2 会場

横浜市長公舎 集会ホール（横浜市西区老松町2番地）

3 内容

- 表彰式 14:00～14:55
副市長小林一美より受賞者の皆様に表彰状を贈呈
- 記念撮影 14:55～15:10
集合写真の撮影
- ポスターセッション 15:25～16:00
活動紹介パネル展示及び情報交換・交流会

4 受賞者

別添一覧のとおり

5 取材について

全て公開いたしますので、取材をお願いいたします。
取材いただける場合は、6月12日（水）17時までに、次の内容を下記のお問合せ先にご連絡ください。

- 貴社名
 - 取材担当者名
 - 当日のご連絡先
 - 車でのご来場の有無及び車種、ナンバー
- なお、取材にあたっては、社名の入った腕章の着用をお願いいたします。

6 その他

一般の方はご入場いただけませんので、ご了承ください。

平成30年度の表彰式の様子



〔第25回横浜環境活動賞〕



〔ヨコハマ温暖化対策賞〕

お問合せ先

（第26回横浜環境活動賞について）

環境創造局政策課環境プロモーション担当課長 小野寺 紀子 Tel 045-671-3830

（ヨコハマ温暖化対策賞について）

環境創造局環境管理課長 土田 知彦 Tel 045-671-2474

（裏面あり）

会場案内図

住所 横浜市西区老松町2番地
横浜市長公舎



交通アクセス

●電車

JR/地下鉄桜木町駅下車 徒歩約12分
京急日の出町駅下車 徒歩約10分

●バス

市営バス野毛坂下車 徒歩約5分

●タクシー

横浜駅より 約10分
桜木町より 約5分

第26回横浜環境活動賞受賞者について

横浜環境活動賞は、地域で様々な環境活動を積極的に行っている方々を表彰する制度です。
横浜市は、この制度を通し、市民の皆様に環境の保全・再生・創造に対する関心をより一層高め
ていただくとともに、地域の環境活動を推進し、環境にやさしいまちづくりに取り組む方々を応
援しています。

※ 受賞者の決定については、平成31年3月20日に記者発表しています。

「第26回横浜環境活動賞受賞者決定」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kankyo/2018/0320katsudosho.html>

【 第26回横浜環境活動賞受賞者一覧 (全12者) 】 (敬称略、五十音順)

市民の部 (5団体)

大賞 特定非営利活動法人森ノオト
実践賞 ハマの海を想う会
保土ヶ谷区民会議 (環境分科会)
横浜自然観察の森友の会
リバーサイドガーデン・フラワーズ

企業の部 (4社)

大賞 株式会社太陽住建
実践賞 アマンダリーナ合同会社
東芝環境ソリューション株式会社
横浜緑地株式会社

児童・生徒・学生の部 (3団体)

大賞 横浜市立幸ヶ谷小学校
実践賞 横浜市立本郷小学校
横浜市立南本宿小学校

生物多様性特別賞 (1団体)

横浜自然観察の森友の会 ※市民の部実践賞と同時受賞

<受賞者の取組は、資料1参照>

ヨコハマ温暖化対策賞受賞事業者について

ヨコハマ温暖化対策賞は、横浜市地球温暖化対策計画書制度において優良な事業者を表彰します。

このたび、H30 年度に 316 事業者より実施状況報告書を提出いただきました。この報告書について大幅な温室効果ガス排出量の削減などの顕著な実績をあげた事業者を、専門家の御意見を踏まえてヨコハマ温暖化対策賞の受賞者に決定しました。

【 ヨコハマ温暖化対策賞受賞事業者一覧 (全 8 者) 】(敬称略、五十音順)

田村工業株式会社
東洋電機製造株式会社
日揮株式会社
日本発条株式会社
日本たばこ産業株式会社
三菱食品株式会社
森紙業株式会社
株式会社横浜スカイビル

<受賞者の取組は、資料 2 参照>

■横浜市地球温暖化対策計画書制度について

横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づき、一定規模以上のエネルギーを使用する事業者等に、3 年間の温室効果ガスの削減計画書及び報告書の提出を義務付けています。

本市は、提出された計画書・報告書の評価、公表、表彰を行います。

— 制度詳細等については下記 URL を御参照ください。 —

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/ondanka/keikakusho/>

第26回横浜環境活動賞 受賞者概要

(敬称略・五十音順)

市民の部 (5団体)

| 受賞内容 | 受賞者名 | 活動地域 | 活動概要 |
|------|-------------------------------------|------------------|--|
| 大賞 | 特定非営利活動法人森ノオト | 青葉区を中心に、市内全域 | 人と自然、農が調和できるようなまちづくりの推進に寄与することを目的として、行政との連携によるイベントや講座の開催、webメディアの運営を通じて、広く一般市民にエコライフの実践を呼びかけている。また、暮らしや地域の情報を「エコの視点」で発信できる市民ライター育成にも取り組んでいる。 |
| 実践賞 | ハマの海を想う会 | 中区 西区 神奈川区 | 「もっと遊ぼうハマの海！」をスローガンに、水辺での市民活動の機会提供と人材育成、環境美化に資する活動を展開している。具体的には、象の鼻パークなどでの清掃活動や生物観察会を定期的に行っており、小学校の総合学習や環境学習の取組に対して助言・協力をしている。 |
| 実践賞 | 保土ヶ谷区民会議(環境分科会) | 保土ヶ谷区 | 保土ヶ谷区民会議は行政と区民とのパイプ役として、連合町内会や各種団体との連携を密にしており、5つの分科会がある。環境分科会は、「自然環境」「ゴミ問題」「エコ問題」等環境に関する多様な視点から活動している。勉強会を通じて委員自身が勉強するとともに、その成果を区民会議主催の「区民のつどい」等を通じて区民に周知している。 |
| 実践賞 | 横浜自然観察の森友の会 生物多様性特別賞 同時受賞 | 栄区 | 自然環境の案内・調査・管理などのボランティア活動や研修・交流・親睦・情報交換を行なうため、1988年に発足。創立30周年を迎えた。10プロジェクト(年間約500回)で延べ3,000人の会員が活動。自然に親しみ・自然に学び・自然を守り育てる行事(年間約150回)なども継続的に開催し、多くの一般市民の参加を得ている。 |
| 実践賞 | リバーサイドガーデン・フラワーズ | 鶴見区 | 連合町会の協力を得て、市民が自発的に参加発足した団体。春は桜と菜の花、秋はコスモスが素敵な鶴見の名所を目指す。鶴見川左岸(旧東海道鶴見川橋袂、市場地区側の土手)の花壇整備に取り組み、住民の憩いの場作りと不法投棄の防止に貢献している。鶴見区のカレンダーやタウンニュースにも掲載された。 |

(裏面あり)

企業の部（4社）

| 受賞内容 | 受賞者名 | 所在区 | 取組概要 |
|------|-----------------|-----|---|
| 大賞 | 株式会社太陽住建 | 南区 | 太陽光発電を普及するため、資料の代わりに防水工事を最大半額で行い、防水保証を通常10年保証のところを20年保証というスキームを構築。太陽光発電設備の設置を通じて、自然エネルギーの普及と、福祉避難所等の地域の防災力向上に貢献している。また、障がい者等の就労機会としてディーセントワークを推進しており、複数の地域課題の解決に寄与している。 |
| 実践賞 | アマンダリーナ合同会社 | 金沢区 | 摘果される青みかんを使ってドレッシングやジュースなどの商品化に取り組み、廃棄物の削減と地産地消に貢献している。また、横浜リユースびんプロジェクトに参画し、環境にやさしいリユースびんの普及促進に積極的に取り組んでいる。近年は、金沢区の海岸に上がった海藻を肥料化して農業に活かすことにも着目し、更なる取組の発展を目指して活動している。 |
| 実践賞 | 東芝環境ソリューション株式会社 | 鶴見区 | 東芝グループの総合環境ソリューション企業として、リユース・リサイクル技術と環境再生エンジニアリング技術を融合し、低炭素社会・循環型社会・持続可能な社会の実現に貢献している。PCBソリューション事業を通じて、環境汚染のリスクや環境負荷を軽減しているだけでなく、サポート対象の顧客に対し、分別指導や行政への届け出指導を行っている。 |
| 実践賞 | 横浜緑地株式会社 | 磯子区 | 造園工事や屋上緑化、緑地空間の維持管理業務、公園の指定管理業務に取り組む中で、環境に配慮した製品の導入や、リサイクル堆肥「はまっ子ユーキ」の活用・販売を行っている。また、新杉田公園で環境教育プログラム「はち育」を開始し、小学校で出張授業を行ったり、イベントでの蜂蜜販売を通じて自社の環境活動を紹介したりしている。 |

児童・生徒・学生の部（3団体）

| 受賞内容 | 受賞者名 | 所在区 | 活動概要 |
|------|------------|------|--|
| 大賞 | 横浜市立幸ヶ谷小学校 | 神奈川区 | 総合的な学習の時間において、幸ヶ谷の河川・海の生き物観察を中心とした活動を行っている。また、海水槽による水辺の生き物の飼育・観察を通じて、児童が生き物を大切にす気持ちや育むとともに、生物数のバランスへの配慮や生息しやすい環境作りといった生物多様性の保全に必要な視点を身に付けている。 |
| 実践賞 | 横浜市立本郷小学校 | 栄区 | 20年以上前に設置されたトンボ池を、環境学習の一環として6年生が整備に取り組み、次の学年に引き継ぎながら児童の憩いの場へと発展させた。トンボ池での活動を通じて、児童が生きもののつながりや外来種のもたらす影響について理解を深め、さらには近隣環境（いたち川等）にも関心を持つことができている。 |
| 実践賞 | 横浜市立南本宿小学校 | 旭区 | 教育水田活動やビオトープ作り、こども自然公園の生物とのふれあいや海とのつながりを意識した流域の学習など、幅広い活動を通じて、児童が楽しみながら環境への学びを深めている。それらの取組をSDGsの視点で捉え直し、地域の方や外部機関とも関わりながら、新たな価値を付加して発信する活動にも力を入れている。 |

コハマ温暖化対策賞 受賞者概要

(敬称略・五十音順)

| 受賞事業者 | 事業者の取組 |
|--|--|
| <p>田村工業株式会社 (製造業、金属製品製造業)</p> | <p>自動車、トラック、建設機械、鉄道等の金属部品の処理加工を行う事業所における、エネルギー使用割合の90%を占める工業炉の都市ガス使用量削減等の取組。 熱処理炉の省エネ型への更新、断熱材の更新、加熱炉扉の断熱強化及び熱放散の削減を実施し、都市ガス使用量を削減した。また、水銀灯のLEDへの更新や工場内屋根への採光部設置により使用電力を削減した。さらに、各炉にガスメーターを設置し使用量の把握や月次点検をすることで、設備の状態を把握し早期の改修による性能維持管理を積極的に推進している。 上記取組により、合計で約786トン、約10%のCO₂排出削減を達成した。</p> |
| <p>東洋電機製造株式会社 (製造業、輸送用機械器具製造業)</p> | <p>鉄道車両用電機品や情報機器等を生産する事業所における、太陽光発電設備導入等の取組。 横浜製作所の工場棟屋根に設置された500kWの太陽光発電装置では、年間約60万kWhが発電されている。発電した電力は全て自家消費しており、好条件下では事業所の全電気使用量の約10%を賄うことができる。 上記取組により約330トン、約8%のCO₂排出削減を達成した。 また、氷蓄熱システム採用によるピークシフト、デマンド管理による節電も実施した。</p> |
| <p>日揮株式会社 (建築業、総合工事業)</p> | <p>同社が区分所有するみなとみらいクイーンズタワーAにおける照明、空調設備を対象とした取組。 照明器具のLED化、空調用冷水ブースターポンプの更新、コンパクト空調の更新、給湯用循環ポンプの更新、水回り照明器具の自動点滅、各空調機の運用変更等を実施した。 上記取組により合計で約1,139トン、約21%のCO₂排出削減を達成した。 特に、約5000台の照明器具のLED化(消費電力96W→50W)によるCO₂排出削減効果が大きく寄与した(約337トンの削減)。 さらに、EMS(環境マネジメントシステム)や省エネに関する実績報告、今後の施策等を記載した報告書を作成しており、電子掲示板に掲載して従業員への周知を実施している。</p> |
| <p>日本発条株式会社 (製造業、金属製品製造業)</p> | <p>ばね、シート等を生産する事業所における、製造工程や試験工程見直しの取組。 油圧疲労試験機の電動サーボ化、冷却水ポンプのインバータ化、工場内水銀灯のLED化、熱処理炉の保温材取り付けによる断熱強化等の設備更新を実施した。また排風ファン、脱臭ファンのインバータの導入、給水ポンプの稼働台数見直し等の運用改善も実施した。 上記取組により合計で約2,075トン、約8%のCO₂排出削減を達成した。 なお、これらの取組実施のため、CO₂削減推進会議を社内に設置した。</p> |
| <p>日本たばこ産業株式会社 (製造業、たばこ製造業)</p> | <p>研究開発拠点においてエネルギー消費の9割を占める空調設備の電気及び都市ガスの使用量削減の取組。 小型貫流ボイラーの更新及び運転制御方式の変更(台数制御→高速多位置制御)、空調用のコンプレッサの小容量化及び分散配置、高効率空冷チラー[*]への更新、温水ポンプのインバータ化、空調機更新に合わせた加熱、加湿方式の変更(電気→蒸気)を実施した。 上記取組により、合計で約657トン、約8%のCO₂排出削減を達成した。 またデマンドコントローラー[*]を設置し、電力使用量を把握する他、氷蓄熱槽を設置し、電力のピークシフトを実施している。</p> |

| 受賞事業者 | 事業者の取組 |
|--------------------------------|--|
| 三菱食品株式会社 (卸売・小売業、飲食料品卸売業) | <p>チルド品を主に扱う倉庫において、空調、照明のエネルギー使用量を削減した取組。</p> <p>照明の高効率化のため、倉庫内のマルチハロゲンランプ、事務所の蛍光灯・ダウンライト、屋外の水銀灯をLEDに更新した。</p> <p>上記取組により合計で約444トン、約13%のCO₂排出削減を達成した。</p> <p>また、従業員の省エネ意識向上のため、朝礼や回覧を活用しエネルギー使用量の実績や削減状況を周知している。</p> |
| 森紙業株式会社 (製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業) | <p>主要なエネルギー使用設備である段ボール箱生産設備更新の取組。</p> <p>生産設備の更新及び検査装置の導入による生産効率の向上とエネルギー使用量の削減を実現した。また、生産設備にて大量に使用する高温の蒸気を生成するボイラーの更新に合わせてドレン[※]のクローズド回収装置を導入し、都市ガスの使用量を大幅に削減した。</p> <p>上記取組により、合計で約393トン、約11%のCO₂排出削減を達成した。</p> |
| 株式会社横浜スカイビル (不動産賃貸業) | <p>様々なテナントが入居する大型複合ビルであるスカイビルにおいて、エネルギー消費割合が大きい冷凍機設備を更新した取組。</p> <p>2014年から熱源機器更新工事を着工し、老朽化した吸収式冷凍機及び水冷チラーユニットをターボ冷凍機(インバーター・定速)及び高効率吸収冷凍機に更新した。</p> <p>上記取組により、約2,210トンのCO₂排出削減を達成した。</p> <p>同社は三菱地所グループ環境基本方針に副い、地球環境への配慮を経営の重点課題のひとつとして捉え、環境保全に積極的に取り組んでいる。竣工23年目を迎えたスカイビルでは、今後も老朽化した設備の更新について省エネを考慮しつつ計画的に推進している。</p> |

※用語の説明

- ・チラー：冷温水循環装置のことで各種液体を一定の温度にコントロールする機器。
- ・デマンドコントローラー：30分間の平均使用電力の最大値(デマンド)を抑えることで、電気の使用量や基本料金を抑えるシステム。
- ・ドレン：気体である蒸気が凝縮し液体である水に変化した姿。ドレンは高温の熱エネルギーを持っており、回収してボイラーへの給水として有効利用するのが一般的である。ドレンを大気に開放された排気口を持つタンクに回収する場合はオープン回収方式といい、ドレンが排出されたときの圧力で回収する場合はクローズド回収方式という。